

新型コロナウイルス感染症により、お亡くなりになられた皆さまに謹んで哀悼の意を表しますとともに、罹患りかんされた皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

さらに、医療従事者の皆さまをはじめとして、高い感染リスクにさらされながら、地域社会に種々貢献されている全ての皆さまに深く敬意と感謝を表します。

一日も早い終息と明るい日常が戻ってきますことを念じあげます。



# 西林寺だより

発行元  
西林寺門徒総代会  
広島県安芸郡坂町  
坂東3-14-17  
(082)885-0018  
iタウンページ  
西林寺

杖のことば

後生の一大事

いのちのあらん限り

油断あるまじきこと



毎日勤まる3密対応のお晨朝(お朝事)風景

## 納骨段併設型永代合同墓

### 「樹心廟」のご案内

皆さまのご要望の多かった永代合同墓を境内に建立いたしました。

私たちは人生に確かな依りどころをもっているでしょうか。もし、確かな依りどころがなければ、私の思いはその時々、社会の価値観や情念に押し流されてしまいます。親鸞聖人や私たちの先祖は、しっかりと大地に根をはった樹木が大風に吹かれても倒れないように、困難な時代にあっても、阿弥陀さまを確かな依りどころとして、心にしっかりと根をはって生きてゆかれました。「樹心廟」とは、そうした先人の願いを訪ね、同じ歩みを進めることを念願して名付けました。

「樹心廟」は、お墓の維持やご遺骨の管理に将来的に不安をお持ちの方、お墓が山の中心にあつてお参りに困難でお困りの方、親族・有縁の皆さまと同じところに分骨したいと考への方等、全骨も分骨もご要望に対応できるものです。

ご遺骨は「樹心廟」で永代に亘ってお預かりし、定期的に法要も営みます。大切な家族を亡くされた悲しみをご縁として、自身の人生と向き合い、阿弥陀さまを依りどころに「俱会一処」の歩みを進めていただくことを念願します。



完成間近の「樹心廟」(6月23日撮影)

### 「樹心廟」建碑法要のご案内

7月19日(日) 13時30分より勤修します。繰り合わせてご参集ください。法要終了後は、「樹心廟」を見学いただけます。

7月1日(水) よりお申し込みを受け付けますが、納骨並びに納骨法要は7月20日(月)より随時お勤めいたします。

なお、詳細は西林寺までお問い合わせください。

## 法座案内

仏教文化講演会

七月 十八日(土)

十時・十三時(二座)

講師 奈良県吉野郡

光明寺 三浦明利師

\*これまでの「安居会」を改めて「仏教文化講演会」とします

孟蘭盆会

八月 十四日(金)昼席より

十六日(日)朝席まで

講師 東広島市黒瀬町

浄願寺 長尾量之師

秋季彼岸会

九月 二十一日(月)昼席より

二十三日(水)朝席まで

講師 呉市吉浦東町

勝法寺 部谷一水師

### 編集後記

コロナ禍での新しい生活様式というのは、社会や他者との関係を希薄化させ「自分さえよければ」という思いを増幅させるという大きな課題を宿しています。

今こそ改めてお仏壇を中心に、お念仏もうす生活の中で自身と向き合う歩みとしたいものです。

朝席7:00～・昼席13:15～・夜席19:30～



### 聞思録(もんしりく)

社会に先行きの見えない不安と恐れをもたらした新型コロナウイルスの拡散状況も、一旦収まりをみせ、新たな局面を迎えました。改めて振り返ってみますと、ウイルスの脅威もさることながら、そこに生み出されてゆく人間の社会や他者に対する排他的な心の荒廃は、まさに現代の社会と自身を写す鏡ともいえ

「不要不急の外出の自粛」という言葉をよく耳にしました。その度に「私にとって不要不急でないこと、つまり重要かつ緊急のことは一体何か」という疑問が頭をよぎります。哲学者パスカルは、「あと一週間のいのちとなったら何をするか。その時にやることこそ、生涯かけてなすべきことである」という意味のことを語っています。あと一週間のいのちとなつたら、これまで「重要かつ緊急」と思っていたことの大半がどうでもよくなってしまうのではないのでしょうか。あと一週間のいのちとなつた時に「これひとつ果たせば後悔なし」といえるものこそ、「人生の目的」と言えるものであり、真に「重要かつ緊急」なものといえるでしょう。『論語』の「朝に道を聞かば 夕べに死すとも可なり」も同様の意味でしょうか。

私たちの先達は、それを「後生の一大事」といい、その解決を何よりも大切にしてきました。「後生」と聞けば、「死んだ後のこと」と思いがちですが、「後生の一大事」とは単に死んだ後のことではなく、「今日ただいまからの我がいのちにとっての一番大事なことです。」「一体何のために生れてきたのか。いのち終わったら、どうなるのか。今死んでも納得できる確かなものに出遇えたか」。人生にそれらの問いを促し、確かな答えを示してください。仏法を依りどころにして生きてゆくことこそ、「重要かつ緊急」の課題なのです。

「杖のことば」の「後生の一大事」のあらん限り 油断あるまじきこと」は、室町後期(五百年前)の妙好人(真宗の篤信者)、富山県五箇山赤尾の道宗の言葉です。片時も休むことなく自身にはたらき続けるみ仏の心を忘れないよう、懈怠(けだいな)我が身を戒めて割り木の上に横たわる道宗の姿が描かれた棟方志功作の版画は有名です。

コロナ禍の今、情動に流されて日々「不要不急」なことを「重要かつ緊急」と思い込み、時間を浪費している我が身を振り返り、この問いに向き合う歩みとしたいものです。確かに依りどころに導かれて歩みを進めるならば、日々の「不要不急」の営みが縁となって、「人生の目的」に出遇えるということに仏法に導かれる人生の深さがあるのです。

### 若婦人会(蓮華の会)結成40周年

本願寺では、仏教婦人会が明治37年に、西林寺では昭和24年に創設されました。そして、お念仏を中心とした仏教婦人会の良い伝統を継承しつつ、新たに社会に開かれた次世代を担う仏教婦人の育成を図るために昭和55年には前住職の発案で若婦人会が結成されました。

仏教婦人会内の組織として徐々に活動が活発化し、結成10年後には、現住職のご指導のもと、毎月20日に例会を開催し、仏教の学びを深めるとともに、名称を「蓮華の会」として、歓びの集い(仏社会主催の納涼ビヤガーデンの前身)やサロン(法座にお参りの困難な年配の皆さまを車で送迎して一日お寺で過ごす集い)・キツ

ズサンガ等、お念仏の輪を広げる新たな取り組みを進めてまいりました。現在、月例会は休止していますが、

仏教婦人会と協力して、おみりを自らが歓び、周りに広げる活動を続けています。



### 仏教婦人会 あれこれ

#### 総会

今年度の総会は、新型コロナウイルスの感染防止のため、参会せずに、議案を会員の皆さまにお配りして承認いただきました。今年度は役員の改選年次で、新役員は次の通りです。

- 会長 奥廻 幸恵
- 副会長 寺廻 千晶・井上 弘子
- 会計 車地 玲子・植田 玲子
- 総務 蔵田 智子・梶谷かおり
- 書記 久保 圭子・上田 澄子
- 監査 中本百合子・齊藤美千恵
- 理事 細川 信子・正原美恵子
- 村上 隆子・中東 真紀

#### 新役員顔合わせ

6月5日(金)新役員の新役員初会合を行いました。毎月5日には、本願寺の月刊誌『大乘』の配布作業や行事の打ち合わせ等を行なっています。皆さまも『大乘』を購読されて、おみりに触れる新たなご縁とされてはいかがでしょうか。「お問い合わせは、各地区の役員まで」



### 広島別院御命日法要参拝

6月15日(月)・16日(火)には、広島別院で毎月開かれる宗祖親鸞聖人の御命日法要に、住職が出講され、仏婦・仏士の有志が2日間に亘って参拝し、久しぶりにご法座でお聴聞のご縁をいただきました。



### 仏教壮年会 あれこれ

#### 総会

4月5日(日)令和2年度の総会を開催しました。不要不急の外出自粛要請期間でしたので、3密対応を考慮して、時間短縮・マスク着用・手指消毒・体温測定・会場消毒(扉・椅子・机・スリッパ等)を徹底しました。



#### 境内春の松の木剪定作業

6月23日(火)・24日(水)松の木の剪定作業を行いました。



右から

- 幸野 輝彦
- 山本 政信
- 渡子 昭弘
- 大廻 邦雄
- 藤田 榮
- 大崎 茂徳
- 寺廻 捷洋
- 奥谷 義信

### 仏教婦人会行事案内

- 八月十二日(水) お盆前本堂おみぎき
- 八月十五日(土) 夜席の後盆踊り